

科目名	リハビリテーション医学			ナンバリング	ZBD223	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	関 晴朗	担当教員	楊箒 隆哉				

授業の概要	「リハビリテーション」は人間の復権を意味し、単なる機能回復訓練のみに限定される医学モデルの用語ではない。しかし、疾病と障害は表裏一体の関係にあり、医学的知識を基軸とする総合的な医療技術をもたなければ適切なリハビリテーションを行うことができない。本科目では、リハビリテーションに関係の深い脳血管疾患、運動器疾患、呼吸循環器疾患、神経・筋疾患などの診断、治療法、機能的予後などについて触れ、リハビリテーションの根源を理解することを目標とする。						
到達目標	1. リハビリテーション診療の対象となる種々の障害について、その病態生理を理解し説明することかできる。 2. リハビリテーション診療の対象となる各種疾患の概要と治療法について説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	予め教科書に目を通し、講義内容のアウトラインを把握しておく。また講義終了後は提示した資料を含めて再度読み直し、知識の整理をする。専門的な項目などで理解できない点があれば積極的に質問してほしい。いずれにせよ、知識は与えられるものではなく、自ら求めていく姿勢が重要である。						
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部作業療法学科のディプロマポリシー】						
		1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。				
	○	2	地域に住む孤立しがちな人びとや、心身および生活上の障害を抱えた人びとの個別な健康・医療課題を的確に把握し、子どもから高齢者に至るまでその人らしく生活できるように、その生活支援や就労支援を行うことで、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。				
	○	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、作業療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた作業療法技術を駆使して生活能力の再獲得への支援ができる。				
		4	健康・医療に関わる作業療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。				

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①四肢体幹の運動機能障害について、障害部位による特性や回復過程の違いを理解する。 ②種々の高次脳機能障害について、その原因疾患と特徴を理解する。 ③摂食嚥下障害、排泄障害などの病態生理を理解する。 ④脳卒中の病態生理、基本的なリハビリテーションの流れを理解する。 ⑤神経疾患、運動器疾患、内部障害、脳性麻痺などの概略を理解する。	①四肢体幹の運動機能障害のリハビリテーションについて、病態生理に基づいた最適なリハビリテーション手法を選択できる。 ②高次脳機能障害の責任病巣を理解し、その評価法と各々の障害に適した対処法を説明できる。 ③サルコペニア、フレイルなどの概念と介護予防について説明できる。 ④脳卒中のリハビリテーションについて、急性期から回復期、維持期毎に適した介入法を説明することができる。 ⑤神経疾患、運動器疾患、内部障害、脳性麻痺などの病態生理を踏まえた上で、それぞれに適したリハビリテーション介入法を説明することができる。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)	●	●					80%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			●	●			20%

課題、評価のフィードバック	manab@IMUを使用するなどして、個別にフィードバックを行う。
---------------	-----------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	関節と筋肉	関節の構造, 関節可動域とその測定, 筋力とその評価, 筋力増強訓練の実際	
	第2回	運動麻痺と歩行障害, 筋緊張異常	運動麻痺とその発生機序, 中枢性麻痺の回復過程, リハビリテーションの実際, 痙縮と筋強剛, 痙縮の治療	
	第3回	高次脳機能障害(1)	失語症の分類と評価法, 失語症のリハビリテーション, 失行, 失認, 半側空間無視	
	第4回	高次脳機能障害(2), 摂食嚥下障害	遂行機能障害, 記憶障害, 注意障害, 社会的行動障害, 摂食嚥下障害の病態生理と評価, 摂食嚥下障害の治療	
	第5回	排泄障害, 老化と介護予防	排泄障害の病態生理と対処法, フレイル, サルコペニア, 運動器不安定症, 高齢化社会とその対策	
	第6回	脳卒中(1)	脳卒中の分類, 脳卒中急性期の治療とリハビリテーション	
	第7回	脳卒中(2)	脳卒中回復期のリハビリテーション, 社会復帰に向けての地域連携	
	第8回	神経・筋疾患(1)	パーキンソン病とパーキンソン症候群, 脊髄小脳変性症	
	第9回	神経・筋疾患(2)	多発性硬化症, 筋萎縮性側索硬化症, 筋ジストロフィー, 末梢神経障害	
	第10回	外傷, 切断	脊髄損傷, 外傷性脳損傷, 四肢切断	
	第11回	運動器疾患	運動器疾患の概要, 運動器疾患のリハビリテーション	
	第12回	関節リウマチと慢性疼痛	関節リウマチの概要と治療, 慢性疼痛の病態生理と対処法	
	第13回	脳性麻痺	脳性麻痺の定義と分類, 原因疾患とリハビリテーション, 合併症	
	第14回	内部障害	心筋梗塞と虚血性心疾患の実際, 心疾患のリハビリテーション, 呼吸器疾患と呼吸器リハビリテーション	
	第15回	悪性腫瘍, 生活習慣病	悪性腫瘍の現状, 悪性腫瘍に対するリハビリテーションの実際, 高血圧や糖尿病などの生活習慣病に対する運動療法	
	試験	全講義終了後に期末試験(筆記試験)を実施する。試験範囲は全範囲とする。		
授業の進め方		講義と質疑応答を基本とする。		
授業外学習の指示		講義の後には配付資料と教科書を再度読み込み, 復習する。興味のある項目やよく理解できなかった項目については, 指定した参考書にも当たってみる。その過程でなお不明な点が残った場合は教員に質問する。また, できるだけ次の講義予定部分の教科書にも目を通しておく。 (授業外学習時間: 毎週 240 分)		

教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論(改定第3版), 椿原彰夫編著, 診断と治療社, 3,600円(税別), ISBN978-4-7878-2345-8
参考書	最新リハビリテーション医学(第3版), 江藤文夫, 里宇明元監修, 阿保雅博, 上月正博, 羽賀信彦編集, 医歯薬出版株式会社, 6,400円(税別), ISBN978-4-263-21730-6 その他講義中に随時資料を配付する。
参考URLなど	日本リハビリテーション医学会ホームページ http://www.jarm.or.jp/
その他	